

2013年3月期(第50期) 第2四半期決算説明会資料

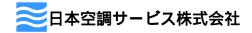


◯日本空調サービス株式会社

2012年11月8日



2012/9第2四半期連結業績(1)

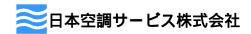


(百万円、%)

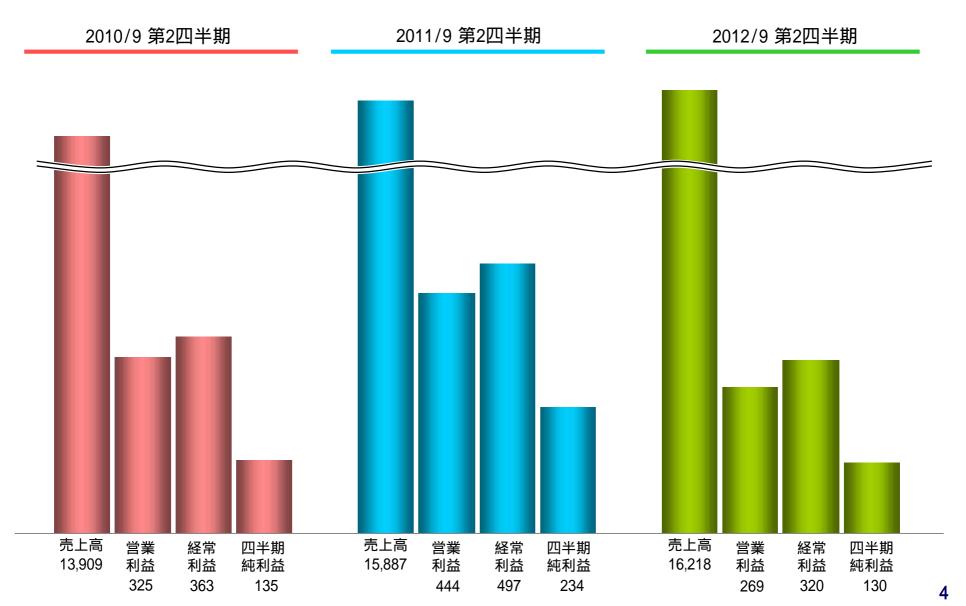
	2012/9第2四半期			2011/9第2四半期			2010/9第2四半期		
	金 額	構成比	対前年 同期比	金額	構成比	対前年 同期比	金額	構成比	対前年 同期比
売 上 高 合 計	16,218	100.0	102.1	15,887	100.0	114.2	13,909	100.0	96.0
メンテナンスサービ ス売 上高	12,424	76.6	104.5	11,888	74.8	102.8	11,569	83.2	98.8
リニューアル工事完成工事高	3,793	23.4	94.8	3,999	25.2	170.9	2,340	16.8	84.4
売 上 総 利 益	2,497	15.4	94.8	2,636	16.6	111.2	2,369	17.0	90.2
販売費·一般管理費	2,228	13.7	101.7	2,191	13.8	107.2	2,044	14.7	103.9
営 業 利 益	269	1.7	60.6	444	2.8	136.5	325	2.3	49.3
営業外収益	65			66			51		
営 業 外 費 用	14			12			12		
経 常 利 益	320	2.0	64.5	497	3.1	136.7	363	2.6	50.9
特 別 利 益	1			0			109		
特 別 損 失	43			30			117		
四半期純利益	130	0.8	55.9	234	1.5	173.4	135	1.0	43.3

2012/3よりセグメントを単一としておりますが、ここでは種類別として表示しております。

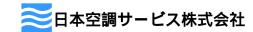
2012/9第2四半期連結業績(2)



(百万円)



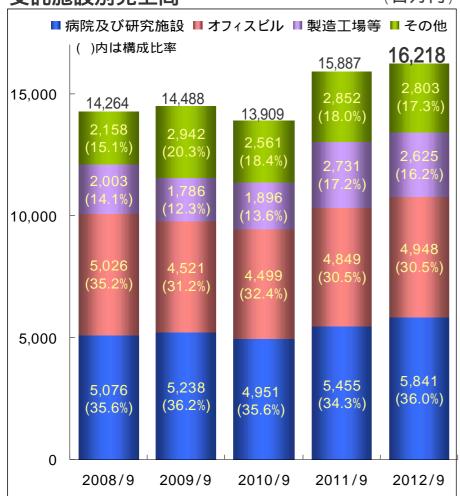
2012/9第2四半期連結売上構成

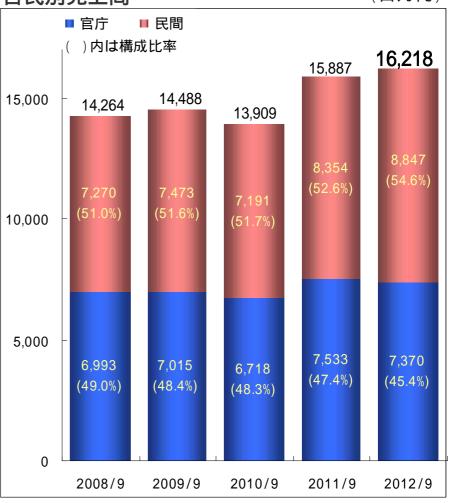


受託施設別売上高

(百万円) 官民別売上高

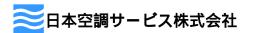
(百万円)





- ・病院及び研究施設については、政策的な撤退を含め3件の失注に対して、5件を新規受注。 契約金額ベースでは、約230百万円の純増となるが、200百万円強が民間での増加である。
- ・工場及びその他の特殊施設を合わせると、150百万円ほど減少している。 中核のメンテナンスサービスは約50百万円増加しているものの、リニューアル工事が約200百万円減少したことが影響した。

2012/9第2四半期連結業績まとめ



売上

メンテナンスサービス 対前期比で+536百万円

・新規FM(統括管理)業務受注が寄与

政策的な撤退を含め3病院を失注したものの、5病院 1大学を新規受注。これらをはじめ、大型年間契約物 件の契約増減額を合わせると、年間で約660百万円 の純増となり、上半期では1/2の約330百万円が売上 増加に寄与した。

・スポットメンテナンス

東日本大震災の影響によるずれ込み分が含まれた 前年同期に対して、主に東日本エリアを中心に約60 百万円減少。

リニューアル工事 対前期比で 206百万円

・東日本大震災の影響及び省エネ高圧化工事の一巡による

コンビニ向け省エネ高圧化工事 242百万円 日空東北(リニューアル工事のみ) 119百万円

利 益

営業利益 対前期比で 175百万円

- ・売上総利益額/率 139百万円 / 1.2ポイント
 - ・受注競争激化による受注金額の低下
 - ·受注損失引当金の計上
 - ・新規年間契約業務スタート時の諸経費増 等
- ・販管費/率 +37百万円 / 0.1ポイント
 - ・経費削減効果もあり、販管費比率としては、0.1ポイント減少したものの、東京新社屋関連費用54百万円の計上により、結果として、販管費が増加。

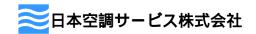
経常利益 対前期比で 177百万円

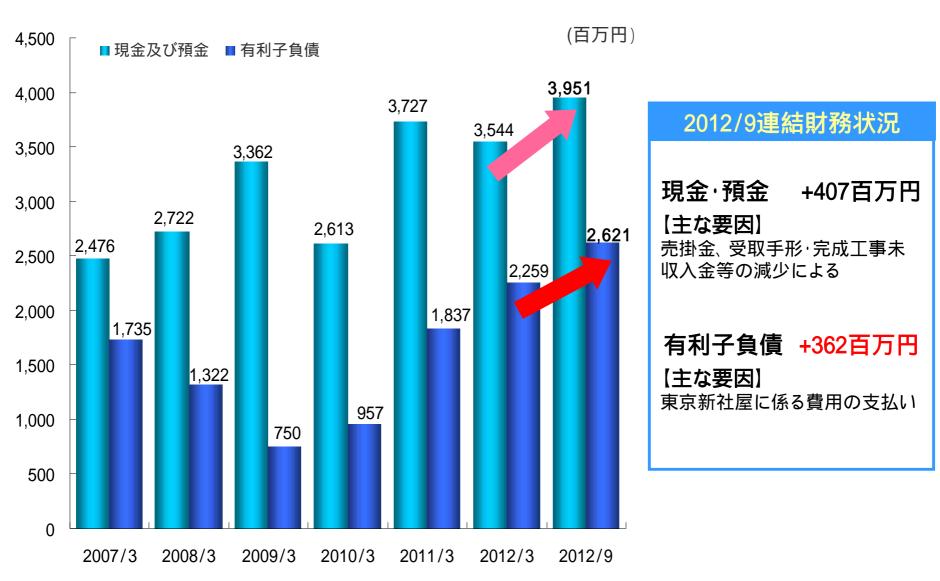
・主に営業利益の減少に起因

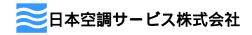
四半期純利益 対前期比で 104百万円

・主に営業利益の減少に起因

連結財務状況







2012年4月 滋賀営業所開設

大阪支店8番目となる滋賀営業所を滋賀県守山市に開設。

役員報酬体系の見直し

役員退職慰労金を廃止し、1円ストックオプションを導入。

社外取締役の充実

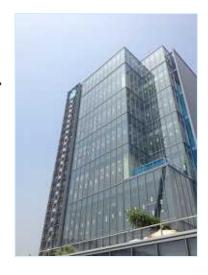
コーポレート・ガバナンス強化の観点より、社外取締役1名(弁護士)を増員し、取締役6名のうち2名を社外取締役とする体制を整えた。

専門的見地から経営監視を行ない、従来以上に透明性の高い意思決定の体制を確保。

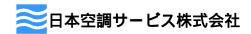
2012年9月 東京新社屋竣工

老朽化とともに社員及び車両の増加に伴い手狭になったため、 江東区潮見に地上9階建ての社屋を建設。

駐車場スペース、倉庫、作業場等が充実したことにより、一層の事業拡大を図る。



2013/3連結業績予想(1)

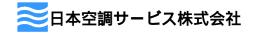


(百万円、%)

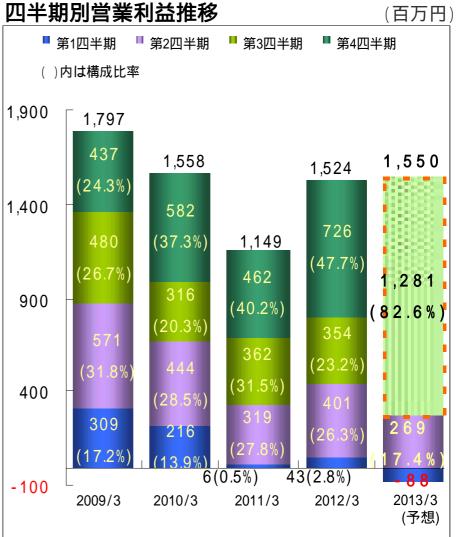
					20	013/3予	2012/3実績		
					金額	構成比	対前年増減率	金額	構成比
売	上	高	合	計	34,500	100.0	1.9	35,156	100.0
メン	テナンフ	マサー	- ビステ	も上高	26,900	78.0	+5.8	25,419	72.3
リニ	ューアル	工事	完成]	[事高	7,600	22.0	21.9	9,736	27.7
売	上	総	利	益	5,950	17.2	+0.6	5,914	16.8
販	売 費・	— j	般 管	理 費	4,400	12.8	+0.2	4,390	12.5
営	業		利	益	1,550	4.5	+1.7	1,524	4.3
営	業	外	収	益	120			112	
営	業	外	費	用	30			25	
経	常		利	益	1,640	4.8	+1.8	1,611	4.6
特	別		利	益	-			11	
特	別		損	失	_			149	
当	期	純	利	益	790	2.3	+10.9	712	2.0

2012/3よりセグメントを単一としておりますが、ここでは種類別として表示しております。

2013/3連結業績予想(2)



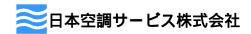




売上 上期実績 47%:下期予想 **53.0%**

営業利益 上期実質 17.4%:下期予想 82.6%

2013/3連結業績予想(3)



全体

通期業績予想は、期初発表のまま。

売上

第2四半期進捗状況・・・通期予想の345億円に対して約47%



ここ数年の状況として、第2四半期時点で、通期に対して45%前後の進捗であり、 今期も順調に推移している。

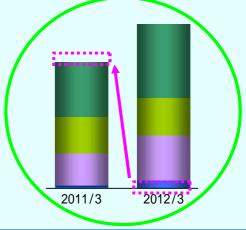
利益

第2四半期進捗状況・・・営業利益の通期予想の1,550百万円に対して、17%程度

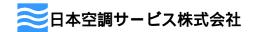


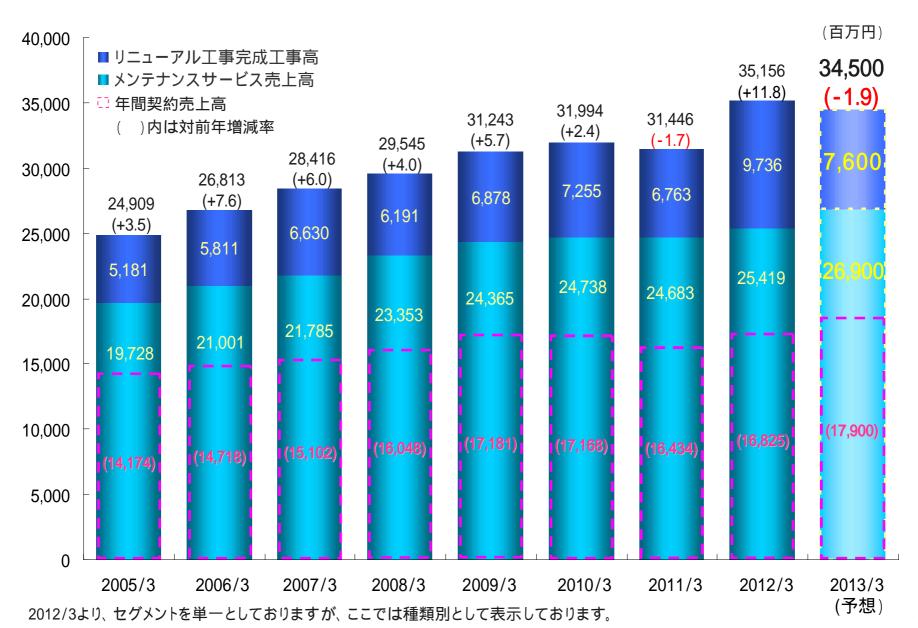
前期、前々期ともに第3·第4四半期で通期の70%超の 営業利益を計上。年間契約業務の受注状況、スポット メンテナンスの足元の傾向を踏まえ、楽観できないものの、 達成困難な予想とは捉えていない。

東日本大震災の影響により、2011/3期4Qから2012/3期1Qへのずれ込み分を考慮すれば、下期に計上する利益のウェートはさらに高くなる。

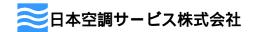


連結売上高推移

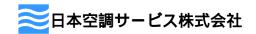




連結経常利益推移







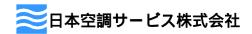
配当の基本方針

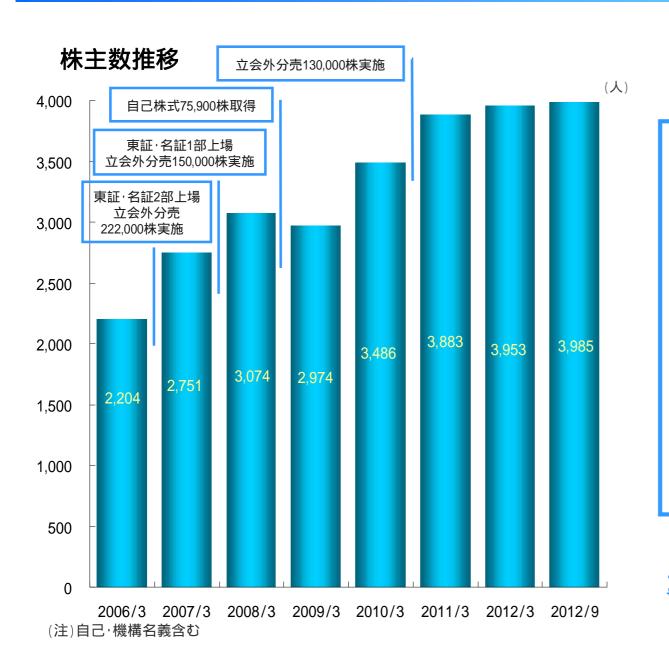
「連結配当性向30%を目途に安定した配当の継続」

	2005/3	2006/3	2007/3	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3(予想)
中間配当円)	-	-	12.0	12.0	14.0	14.0	14.0	14.0	16.0
期末配当円)	18.0	22.0	14.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	16.0
記念配当円)	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-
配当性向(%)	19.1	21.8	25.8	34.4	32.1	33.4	62.8	38.7	34.9



IRに対する考え





IRに対する考え方

従来どおりの個人投資家向け IR活動を続けながら中期的目標として株主数5,000名突破を 目指す

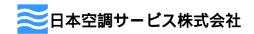
さらに

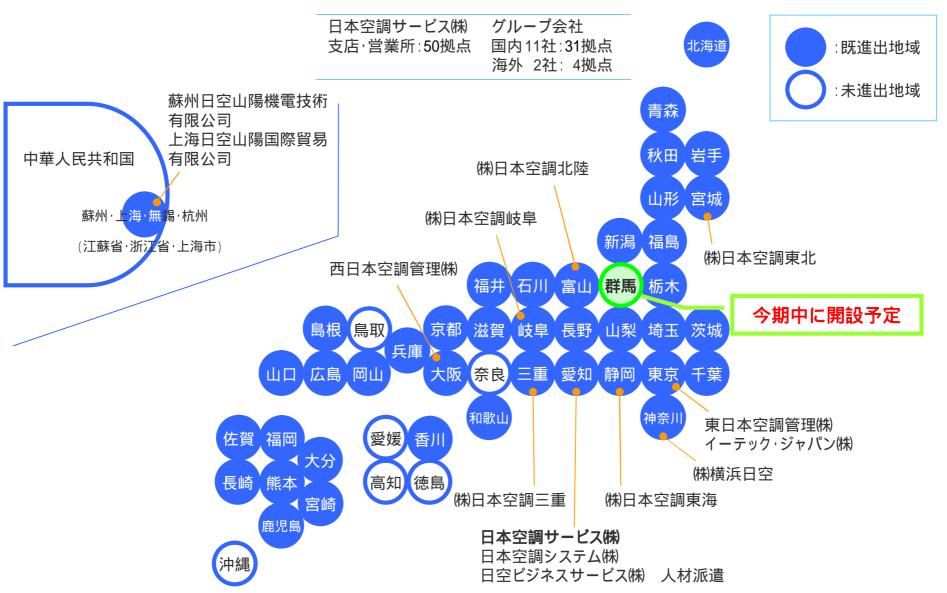
機関投資家向けIR

今後は、ウエイトの低かった機関投資家向けIR活動にも 力を入れていく

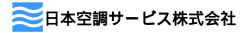
最適株主構成を模索

営業拠点網





(注)株式会社横浜日空は、2012年12月1日付けでイーテック・ジャパン株式会社に吸収合併することが決定しております。 よって、同日より国内グループ会社数は10社となります。



社長就任にあたり「**果たすべき責任**」とは **!!**

企業価値の向上

3つの施策

コーポレート・ガバナンスの充実

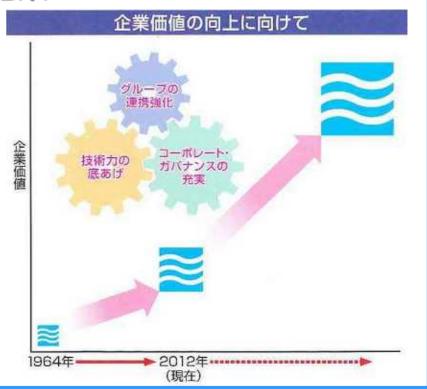
最も大切なことは牽制機能の実効性を高めていくことだと考ています。ガバナンスを十分に効かせられれば、業績向上に繋げることができます。

技術力の底あげ

技術力の向上こそが他社に対する最大の差別化であり、その 結果として利益を追求できる優位な立場になることができます。 そのために必要となる人材投資と教育を加速させます。

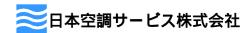
グループの連携強化

今まで以上にそれぞれの距離感を縮めて、技術面・営業面・人 材面など、シナジー効果をより一層高められる関係を再構築し ていきます。

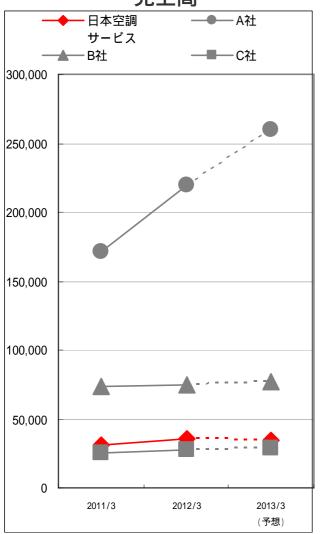


ご参考

- ビルメンテナンス業界各社(東証上場)との比較 -

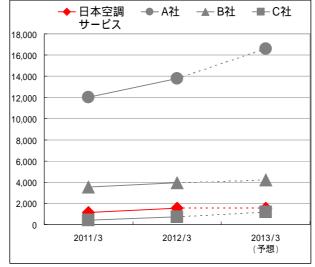




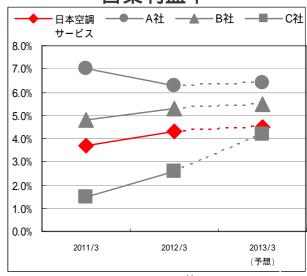


(注)1.業績予想は各社公表の最新情報によるものです。 2.A社は2月末決算。

営業利益



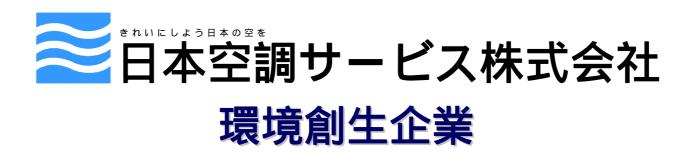
(百万円、%) 世業利达家



(倍、円、百万円)

	(10(13(17)			
	日本空調 サービス	A社 (注)2	B社	C社
PER(株価収益率) (2013/3予想)	7.92	9.57	10.51	6.21
`PBR(株価純資産倍率) (2012/3実績)	0.63	1.38	1.00	0.33
配当額 (2012/3実績)	32.0	40.0	40.0	20.0
配当利回り	4.41%	2.52%	2.69%	4.05%
株価 (2012/11/1終値)	726	1,587	1,489	494
時価総額 (2012/11/1現在)	7,221	85,967	30,659	3,813

Yahoo!ファイナンス情報より



IR担当:総務部広報チーム

TEL: (052)773-2513 FAX: (052)778-4554

E-mail: ir4658@nikku.co.jp HP: http://www.nikku.co.jp

本資料に記載されている業績の予想・計画は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想・計画数値と異なる場合があります。